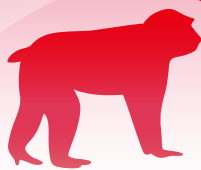


ニホンザルの被害防止

集落ぐるみで防ぐサルの被害



ニホンザルは丹精込めて作った農作物を荒らすにくき動物ですが、森の生態系の重要な一員です。サルの特徴をよく知って、うまく棲み分けていくことが大切です。

サルにまつわるホントにホント？ 正しい知識を持ってサル害に立ち向かおう

ホント？

1

サルは本当に賢いの？

サルは、「学習能力」が高く、おいしいエサにありついた場所や、出会っても怖くない人はすぐに覚えます。

ただし、他のサルのまねをしたり、サル同士協力して作業をすることはできません。

ホント？

2

臭いや音には敏感なの？

サルの嗅覚や聴覚は人間並みで、イノシシやシカに較べるとたいしたことありません。いろんな情報はもっぱら目で見て集めています。(だから活動するのは日中です)

ホント？

3

強いオス（ボスザル）が群れを仕切っているの？

野生の群れの動きは成獣のメスが決めていると考えられています。オスは群れに合わせて動きますが、5～8歳に成長すると生まれた群れから離れます。群れを離れたオスは、他の群れに加入したり、オスグループを形成したりするほか「ハナレザル」として単独生活を送ります。

ホント？

4

子供は毎年産まれるの？

野生の群れでは、最初のお産は6～7歳、その後2～3年に1回のペースで出産しますから、爆発的に個体数が増える動物ではありません。ただし農作物や餌付けにより栄養状態がよくなれば初産年齢が早まったり、出産間隔が短くなる場合があります。

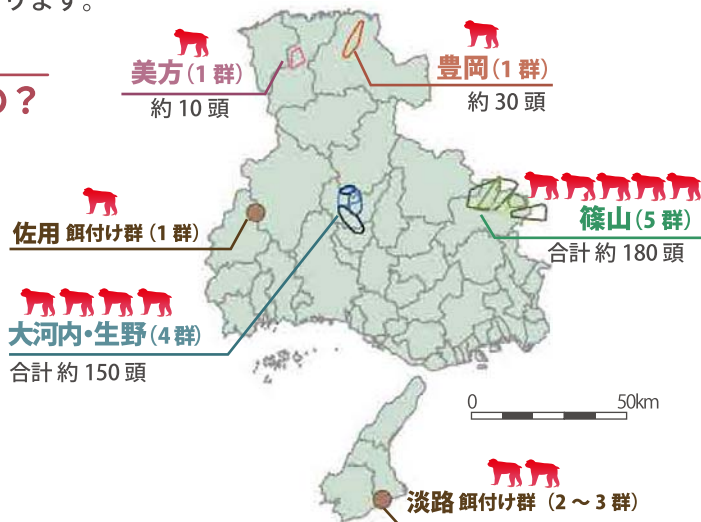
ホント？

5

兵庫のサルはどのぐらいいるの？

餌付けされている群れをあわせると15～16群が生息しています。ただし、近隣県に比べると少ない状況です。1群しかなく、孤立化が進んでいる地域もあり、地域的な絶滅が心配されています。

しかし、すべての群れが集落に出没し、農作物に被害を与えるなど、問題が起きています。



個体数調査および行動域調査(2022年)



農作物被害



短時間でも大きな被害が発生する

群れで来るので、広い田や畑でも短い間に大きな被害を受けることがあります。



ぜいたくな食べ方をする

作物の中でおいしい部分だけをかじって捨て、次々と新しい作物を食べていくので食べ残しが散乱します。

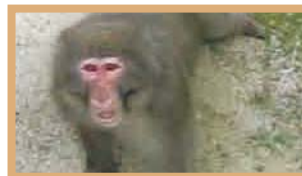


人なれがすすむと

サルは学習力が高いので、楽にエサを食べられる方法をどんどん覚えていきます。人なれがすすむにつれ、次のように行動がエスカレートしていくのが特徴です。

サルの人なれ度合い レベル5

- 1 人の姿を見ると、遠くにいてもすぐ逃げる
- 2 人が遠くにいと逃げないが、近づくと逃げる
- 3 人が近くにいても多くのサルが逃げない
- 4 人が追い払ってもなかなか逃げず、時には威嚇してくる
- 5 民家に侵入することがある



ハナレザルについて



オスは成長すると生まれた群れを離れます。他の群れに合流したり、オスグループを形成したりするほか、「ハナレザル」として単独生活を送ります。



ハナレザルがやってきたら？

餌付け行為をしない

好奇心などからエサを与えたりすると、「ここは居心地いいね！」とサルが思うため、長期滞在したり、被害が続いたりします。

みんなで追い払う

集落や住宅地を徘徊したり、加害している時は、積極的に追い払って、その場所から移動をさせるようにします。(通常1週間～1ヶ月で通過)

有害捕獲の実施

追い払いなどを行っても、集落や住宅地から移動しない場合や、人を威嚇したり民家に侵入したりするなど、人身被害の可能性が高い場合は、箱わななどを使って捕獲します。



被害対策

サルにとって居心地が悪くてエサがない集落にしましょう！

サル対策の ポイント

- | | |
|------------|------------|
| 1 大事なものは | ▶ 守る |
| 2 不要なものは | ▶ なくす |
| 3 サルを見かけたら | ▶ とにかく追い払う |
| 4 集落周辺は | ▶ 見通しを良くする |

守る

囲って 隠して しっかり守る

- ・サルの行動特性に合わせた防護柵で農地を守りましょう（裏面参照）
- ・収穫した作物の保管はサルの目にふれないようにしましょう



サルがよじ登ると感電する電気柵

なくす

ストップ！知らない間の餌付け行為

- ・野菜クズや生ゴミなどを捨てないようにしましょう
- ・野外でバーベキューをした残りは持ち帰りましょう
- ・山裾の畑などで「サル用」と称する捨て作りはやめましょう
- ・お墓参りのお供えは必ず持ち帰りましょう
- ・利用しないカキやクリの木は切りましょう



収穫しないカキの木に群がるサル

追い払う

人間はみんな怖いぞ！と思い知らせる

- ・一人でも多くの人数で、できるだけしつこく！
- ・追い払いのターゲットはメスと子ども！
- ・ロケット花火、電動ガンなどを活用しましょう！
特に体力のない人ほど強い武器を！
- ・犬を活用しましょう！（※）
- ・農作物を収穫した後でも、サルが農地で残り物を
食べていたら、追い払いましょう



追い払い道具



みんなで追い払う

※注：犬のリードをはずして追い払う場合は、県の定めたガイドラインに基づき訓練し、市町長の認定を受けるなど、一定の条件が必要です。

見通し

サルが身を隠す場所を減らしましょう

- ・林縁部（集落と山林の境）は、特に見通しを良くしましょう
- ・集落内のやぶをなくしましょう
- ・逃げ場所になっている立ち木はできるだけ切りましょう



刈り払われた林縁部

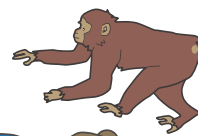


住民パワーを結集してサル被害に立ち向かおう！

集落ぐるみ対策の進め方

- ① 被害を出している動物や被害対策のことを知ろう
- ② 守るべき自分たちの地域を知ろう
- ③ 被害対策の計画を立て、実施しよう

ストップ



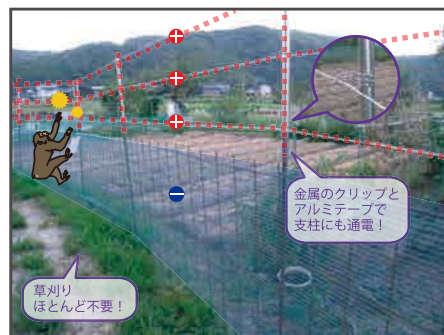
集落や農地がサルのエサ場にならないように、地域ぐるみで総合的な対策を進めましょう！



防護柵の例

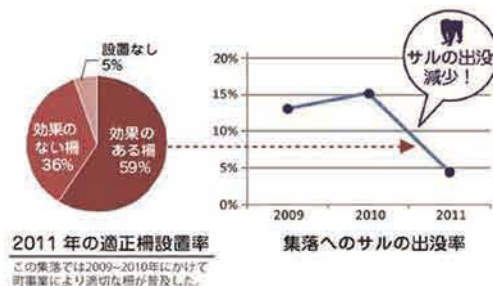
ワイヤーメッシュと電気柵の組み合わせで効果を発揮！

- ① 設置が簡単。資材のほとんどが量販店で購入できる
- ② ワイヤーメッシュをアースの電極として利用できるため、サルなどのよじ登るタイプの動物に電気ショックを与えることができる。
- ③ イノシシやシカを同時に防ぐことができる。
- ④ 支柱部分の塩ビパイプにアルミテープなど通電性のあるものを巻き、クリップで電線を保持することで、支柱に上って侵入されるのを防ぐことができる。



集落で防護柵の設置率を高めると・・・

S集落で、適切な防護柵の設置率を高め、サルが利用可能な菜園を61アール(27か所)→20アール(8か所)まで減少させたところ、サルの出没率が大きく減少しました。



効果的な追い払いの例

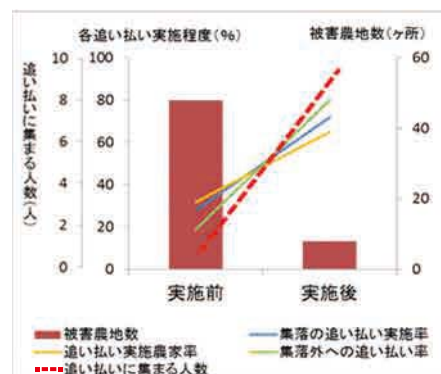
集落ぐるみの追い払いを進めると・・・



A地区の追い払い方法

図のA地区では、サルが侵入したときは常に、複数の住民がサルが出た場所に集まり、8名前後の集団で、サルが集落から出るまで追い払いを実施しました。

左のような行動様式の追い払いを実証したA地区では、サル郡の行動域や出没頻度が変化し、被害が大幅に軽減しました。



三重県農業研究所



兵庫県
森林動物研究センター
Wildlife Management Research Center, Hyogo

森林動物研究センターではサルの個体数調査や獣害対策の指導・助言を行っています。

